

握りスイッチの製作

1 相談内容

相談者は対象者の娘です。相談者から意思伝達装置の相談がありました。対象者は気管切開して声が出せないため、意思疎通の手段を探しておられました。右手全体にふるえがあり、押しボタン式スイッチでは操作が難しいと思われたので、ふるえのない身体の場所を探したところ首の動きが自然にできたので、首を左右に向けてポイントタッチスイッチ(パシフィックサプライ㈱)を触って文字入力する方法を提案しました。その後、対象者はメーカーから意思伝達装置を借りて練習する機会を得ましたが、体調不良によりそれも叶わず中断していました。半年後、再び意思伝達装置の使用を検討するため、訪問してスイッチの選定・適合から対応することにしました。

2 対象者プロフィール

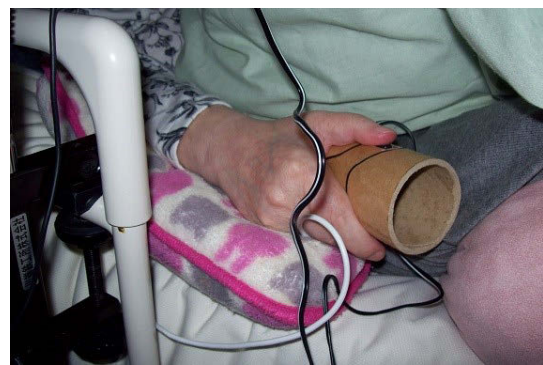
70 代女性、身体障害者手帳 1 級、要介護 5 です。多系統萎縮症です。家族と暮らしています。

3 対応

再度訪問した際に対象者の首の動きをみたところ思わしくありませんでした。なお相談者から対象者が普段から手指拘縮予防のために握っている直径 55mm の筒を握るとふるえが少しおさまるようだとお聞きしたので、筒を握った状態でふるえがあっても固い押しボタンスイッチを押せるようにすれば文字選択できるのではないかと考え、筒の中にスイッチ部品(タクトスイッチ)を埋め込むように配置した握りスイッチを製作しました。



紙筒へタクトスイッチを埋め込み



右親指でのスイッチ操作の様子

4 結果

対象者に試していただき、ふるえがあっても誤入力することが少なくなりました。そしてスムーズに文字を選択できるよう、押すタイミングを図る練習を開始しました。

5 予算

300 円程度